

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第3回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

・地域活動支援事業について（採択事業の決定）

(2) 自主的審議事項（公開）

・旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について

3 開催日時

令和4年6月9日（木）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、杉田一夫、高橋清司（副会長）
田中利夫、塚田春枝、日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席3人）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：井澤委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業について（採択事業の決定）」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・採点票の集計結果を報告
- ・協議の手順を説明

【青木会長】

今ほどの説明について質問を求める。

【松山委員】

全体の配分額を超過しているため、減額が必要だが、最終的に超過額をゼロにしなければならないのか。

また、減額の金額について、ここで決めてしまってよいのか。

【藤井係長】

超過額はゼロにしなければならない。

次に減額については、地域協議会で決定後、減額内容を提案団体に伝え、予定通り事業を実施できるか確認する。

もし実施できないとなれば、補助金の申請は行われぬ。内容を変更して事業を実施したいとなれば、変更の内容に応じて、場合によっては地域協議会に改めて諮ることもある。

【青木会長】

それでは、「(A) 採否の決定」を行う。

採点結果では「即不採択」となる事業はなかったため、基本的にはすべての事業を採択したいと思うが、何か意見等あるか。

(発言なし)

では、すべての事業について、「採択すべき」としてよいと考える委員は挙手願う。

(全員挙手)

よって、すべての事業を採択することとする。

次に「(B) 補助額の決定」を行う。

補助金の減額について、意見を求める。

【松山委員】

参考資料の中に、具体的な減額の案が提示されている。

可能であれば、これについて先に説明いただいてはどうか。

【青木会長】

その説明をする前に、他の委員の意見を伺いたい。

【上野委員】

まず、それぞれの事業に超過額の 93 万 3,000 円を割り当てて一律に減額するのか、或いは下位の事業から減額するのか、これについてよく検討してほしいと思う。

【青木会長】

一律に減額する方法もある。

私としては、今回の提案を見ると、補助希望金額の大きい事業は極端に大きく、金額の少ない事業はかなり少ない。そのため、少額の事業からも減額してしまうと、ほとんど補助できなくなってしまうような気がする。

【日向副会長】

単純に、超過額の 93 万 3,000 円を 8 事業で割ると、約 11 万 6,000 円になる。

【井澤委員】

一律に減額するなら、パーセントで減額したほうがよい。

【塚田委員】

やはり皆さんから評価をしてもらっているので、それに準ずる形で減額してはどうか。難しい作業になると思う。

【松山委員】

私は、一律に減額することには反対である。

一部の事業には、自主財源をもっと増やしてほしいと思っている。

例えば、雪まつり事業の花火打上げについては、先日のヒアリングで、今後寄付金を募ると言っていた。だんとうの大杉についても、町内会から支出できるようなことを話していた。

そのため、金額の大きいこの 2 事業から減額することで、配分額になんとか収まるのではないか。

【青木会長】

ほかに意見がなければ、参考資料の中で提示されている、具体的な減額案について、記入者から説明願いたい。

【高橋副会長】

私の減額案は、昨年度の補助希望額と比較して増加額の大きい3事業に対して、その増加額の比率で減額して算出した。

だんとうの大杉事業については、昨年度と比較すると106万7,000円も増額して申請されている。

令和2年度の補助希望額は31万9,000円、令和3年度は74万8,000円と推移してきてきた中で、今回は181万5,000円という大きな数字が出てきている。

極端にこの1事業のみを減額することも考えたが、それは少し問題があると思い、昨年度の申請額からの増加額が大きい3事業を減額することを考えた。

単純に金額で算出しただけなので、内容にもよると思う。

算出方法としては、3事業トータルの増加額は124万1,000円で、その内訳が、だんとうの大杉事業は86パーセント、安全安心対策事業は8.54パーセント、雪まつり事業は5.5パーセントという比率であることから、単純に、超過額93万3,000円にその比率をかけた。

ただし、参考資料の金額は93万5,000円で計算してしまったので、若干数字が間違っている。あとで訂正する。

【青木会長】

とてもよく考えられている。

確かに、松山委員の発言のとおり、自主財源でお願いしたいという部分もあるが、今の高橋副会長の案であれば、一応理由付けもできているので、個人的にはよいと思う。ほかに意見等あるか。

【松山委員】

参考資料で「自主財源の増額を願う」と書いたのは私である。

具体的には、雪まつり事業については、自主財源の確保と事業費見直しで20万円、花火の寄付が集まることを期待する。

例えば、ノルディックウォークや安心安全対策事業は、しっかりとした組織を持っているので、自主財源から少し支出してもらいたい。

あとの事業については、減額は難しいと思った。

花火の寄付金は20万円ぐらい集まらないものか。例えば、打ち上げ時期を雪の少ない時期にずらせば、除雪費も減るのではないか。

そのようなことを考えた。

【井澤委員】

この会で、財源の心配や減額した場合の事業実施まで考えなくてもよいのではないか。

それを考えるのは団体であって、自主財源を増やしたほうがよいなどを我々が考えなければいけないのか。

【藤井係長】

自主財源についてお考えいただくのはよいが、実際どのようにするのは団体が決めることなので、それは団体に聞いてみないと分からないというのが実態である。

【上野委員】

井澤委員が発言したように、自主財源についてはここで問われることではないと思う。

もし減額した場合、その団体が申請どおり事業を行うか、事業費を縮小するかということであって、自主財源については、特にこの会で話し合うことではないと思う。

例えば、ノルディックウォークの用具については、30セット購入予定にしているが、減額されれば、20セットにするかもしれない。自主財源を足して30セット買うのか、20セットに減らすのか、それは団体が考えることである。ここで自主財源を出してほしいということ言うのではなくて、事業のやり方は団体に任せたいと思う。

【松山委員】

そのとおりだと思うが、私は団体を成長させる意味で言っている。

そんなに減額されたら事業ができないと言われても困るし、それをどうするかを考えてあげなければいけないと思う。

【高橋副会長】

だんとうの大杉についてである。

令和2年度や3年度と比べて、今年度なぜこんなに高額な数字が出てきたのか。計画的な活動をしているにも関わらず、なぜこんなに多いのか、少し不信感を感じた。計画はよいが、中身に疑問符が付いたため、やはりこのままではよくないと思った。

【青木会長】

ほかに意見等あるか。

【日向副会長】

私は、稲谷のだんとうの大杉の真下に住んでいるのだが、今回の突風で真ん中にかかなり亀裂が入った。急を要する治療で、かなりお金がかかると町内会長からも説明があったと思う。それだけ補足する。

それでないと、地域の宝である大杉がなくなってしまう。

【青木会長】

他に意見等あるか。

【塚田委員】

私も自主財源という話は、ここで踏み込むべきではないと思う。私たちは公平な立場であり、どの団体の皆さんも一生懸命にやっていたらっしゃるので、どのように減額するかを考えるべきではないと思う。

【杉田委員】

だんとうの大杉については、やはり今回が最後だという気持ちもあるのではないか。かなり傷んでいるという状況も聞いたので、あまり極端な減額は気の毒だと思う。皆で少しずつ痛み分けをするやり方はないか。

【山崎主事】

ここまでにしている減額案を整理する。

減額案①として、一律に補助額に応じた割合で按分して、全事業から減額していく方法。

減額案②として、塚田委員から提案いただいた評価に応じて減額していく方法。

減額案③として、松山委員から提案いただいた、自主財源を確保してもらいたい高額な事業から減額するパターン。

減額案④として、高橋副会長から提案いただいた、前年の申請額との比較で、増加額が大きい3事業を、その金額の割合に応じて減額する方法。

今出ている意見はこの4つだと思う。

【日向副会長】

この中から多数決で決めてはどうか。

【塚田委員】

自分から言ってしまうが、評価に応じて減額と言うのは難しいと思う。理由は立つ

と思うが、どうやったらよいか分からないので、事務局に考えはあるか。

【山崎主事】

塚田委員の案は、下位の事業はより減額の割合が高く、上位の事業は減額の割合を低くするということだと思う。

参考に、全事業から按分して減額する、減額案①の一覧表は作ってあるのでお見せする。

(スクリーンで投影)

一番減額金額が大きいものだと、雪まつり事業で39万1,000円の減額で、一番事業費の小さい、男の料理教室の場合は、1万円の減額になる。

【青木会長】

これが一番妥当かもしれない。

【井澤委員】

ただ、例年通りの申請額で出している団体とは別に、今年で終わりだから高額な申請額で出している団体が存在する可能性もゼロではないと思う。それを平等と言ってよいのか。

個人的な意見としては、減額案④の高橋副会長の案がよいと思う。自分も実際感じていた部分である。

【青木会長】

だんとうの大杉について、ヒアリングでも話があったが、従来は肥料を入れたり、その程度の治療を行ってきたが、ここ3、4年でかなり腐食が進んでいて、その部分を切らないと大杉が無くなってしまう可能性があるとのことである。そのため、今回の治療には大きなお金がかかるのだと説明があった。

この事業を半額も減額してしまうと、治療が中途半端になってしまうという心配がある。そう考えると、この減額案①が合理的かもしれない。

【松山委員】

私は減額案①に反対である。

それぞれの団体の思いが分かっているので、何も理由がないのに減額するのは失礼だと思う。だから、個々の事業について減額したらいいと思う。

最終的には多数決で判断すればよいが、力のある団体には自分たちで頑張ってもらって、そうでない団体には手を差し伸べてあげる、私はそのような考え方である。

【小林センター長】

減額案がいくつか出ているため、まず、全事業を一律で減額するか、そうでないか、この2択で採決を取ってはどうか。

一律に減額することが採択されれば、先ほどスクリーンに映した一覧表のとおりとなり、採択されなければ、先ほどの減額案②③④の中から、また多数決を取ればよい。このような2段階で確認してはどうか。

【青木会長】

そのようにしたいと思う。

それでは、減額案①の、一律に減額する方法に賛成の委員は挙手願う。

(3人挙手)

反対の委員は挙手願う。

(5人挙手)

それでは、減額案①は除き、減額案②③④の中から、改めて議論したい。

【上野委員】

今から減額案②と③を検討していると、かなり時間がかかる。減額案④のほうが、時間のロスもなく、よい評価になると思う。

【塚田委員】

私も④がよいと思う。昨年度より大きな金額を盛るということは、財源自体が限られている支援事業全体にとっても負担になると思う。

【青木会長】

それでは採決を取る。

減額案④に賛成の委員は挙手願う。

(7人挙手)

採決により、減額案④を採用する。

減額の内容としては、雪まつり事業から5万1,000円、安全安心対策事業から8万円、だんとうの大杉保存事業については、再計算により80万2,000円の減額となる。

【松山委員】

間違えた認識で手を挙げてしまった。

私の減額案は、雪まつり事業から20万円、だんとうの大杉保存事業から10万円、その分は自主財源で確保してもらおう、そんな考えでいた。あとは他の事業で、いくら

か団体からお金を出してもらえばよいと思っていた。

ただ、既に別の案に決まってしまったので、私の意見はここまでにする。

だんとうの大杉は危険な状態なので、どうにかしてあげたいと思っていた。

【山崎主事】

減額の理由としては、高土区の補助希望額の総額が配分額をオーバーしているという状況の中で、より多くの団体から事業を行っていただきたいという気持ちから、これまでの実績と比べた時に差額の大きい事業を減額したということによいか。

【青木会長】

そのようにしたいと思う。

最後に附帯意見について審議する。これまでの審議内容を踏まえ、附帯意見が必要だと思う事業について、意見を求める。

(発言なし)

【松山委員】

違う話になるが、配分額をオーバーしている状況については、個々の提案団体は知っているのか。

【山崎主事】

伝えていない。

最終的な採択額は地域協議会だよりで地区へお知らせしている。

【松山委員】

伝えてあるのだと思っていた。

これだけオーバーしているということを団体も知っていると思っていた。

【小林センター長】

他の協議会でも同じ取扱いで、団体へは伝えていない。

我々は、提案されたものに対して審査をし、採択したという作業結果を、地域協議会だよりでお知らせしている。

審査結果を受けて、自主財源で賄うかどうかは団体が考えることであって、場合によっては事業自体を辞退するということもある。

団体を育成したいという松山委員の発言も分かるが、これは地域活動支援事業の採択という作業であることをご理解いただきたい。

【青木会長】

附帯意見について意見を求める。

(発言なし)

附帯意見はなしとしてよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業について（採択事業の決定）」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

次のとおり提案する。

- ・アンケート結果では、「アスレチックや迷路など自然を生かした遊び道具のある広場」が一番多かった。また、4月の協議会では「広場や公園として活用することとし、実現可能なことから進めていく」という意見を頂いていた。よって、今後の活用はこの方向性としてよいか。
- ・また、これらを踏まえ、高士小学校へのアンケート結果報告について、資料の案（委員のみ配布）のとおりにしてよいか。
- ・次回の協議会の提案として、除却後のスポーツ広場の現場確認をしてはどうか。
- ・また、当初のスケジュールにあった地区アンケートを実施してはどうか。

【青木会長】

順を追って確認していく。

まず、高士小学校のアンケート結果を受けた方向性についてである。

以前の協議会の中では、アンケート結果を受けて、「皆で活用できる広場を作ろう」「できることからやっぺいこう」という意見が出ていた。

これまで審議してきて、このような流れで来ていたと思うが、改めて、このような方向性でよいか。

(よしの声)

次に、高士小学校へのアンケート結果報告についてである。

事務局から案を作っていたが、これについて意見はあるか。

(発言なし)

【松山委員】

地区アンケートをする際には、高士小学校へ行ったアンケートと同じ内容にしてほしい。そうすると同じ目線で進めると思う。できるだけいろいろな人から意見を書いていただけるようにしたい。

【青木会長】

また、先ほど事務局から、次のアクションとして、除却後のスポーツ広場の現場確認をしてはどうかという提案があった。これについてはどうか。

【松山委員】

ここに来る前にスポーツ広場を見てきた。

かなり綺麗になっていたが、草刈りはしていないのか。

【青木会長】

草刈りは行っている。4、5日前にやった。

【上野委員】

5月28日に実施し、32名の方から協力いただいた。

【青木会長】

もう一度現場を見てもらおうと、何が必要なのか、まずは何ができるか、このようなことが分かると思う。実施することとしてよいか。

(よしの声)

以上でよいか。

【小林センター長】

事務局の提案を承認いただき感謝する。

この後、高士小学校へのアンケート結果の報告と、次回の協議会の準備を進めたいと思う。

現場視察については、次回の協議会の開始前に広場にお集まりいただき、詳しい方から説明をいただきながら、30分ほど散策したいと思う。

また、地区アンケートについては、先ほど松山委員から提案もあったが、事務局でも同じようなことを考えていた。小学校アンケートとほぼ同じ設問で、比較調査ができればよいと思っている。

次回、具体的な文面を承認いただければ、早ければ7月、8月には集計が完了し、小学生アンケートと地区アンケートの結果をもって、地域の声を収集したことになる。そして、市に提案するという流れになり、非常に順調だと思う。

【青木会長】

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

- ・ 次回の協議会：7月7日（木） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室（午後6時に旧高士スポーツ広場に集合し、会議開始前に現場視察を実施）
- ・ 内容：自主的審議事項

次回の現場視察には、高士地区振興協議会の横川会長にもお声掛けしたい。

その他、何かあるか。

（発言なし）

【日向副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【青木会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。